

平成 24 年度 第 3 回十和田市行政改革推進懇談会 会議録

日 時 平成 24 年 12 月 17 日 (月) 13 : 30 ~ 16 : 00

場 所 十和田市役所 議会会議室

出席委員 伊藤伸彦委員 (会長)、石川正憲委員、今泉勝博委員、升澤博也委員、
立崎房子委員

事 務 局 (企画財政部) 伊藤理事
(企画調整課) 横道課長、福島課長補佐、山本課長補佐、沢井主任主査、
中野渡主査、太田主査
(総 務 課) 沖澤課長補佐
(生活環境課) 寺澤課長、漆畑課長補佐、山本技師

1. 議 題

- (1) 評価の進め方について
- (2) 質疑及び評価
- (3) その他

2. 会議資料

- (1) 事務事業担当課からの追加資料
 - 生活環境課
 - ・対象団体
 - ・各団体の主な活動内容と予算額
 - ・各団体機関との連携について
 - ・今後の防犯活動推進体制について
 - ・十和田市における犯罪発生状況について (犯罪発生マップ)
自転車盗、車上狙い、住宅対象侵入窃盗
 - ・県警による防犯及び子ども、女性の安全確保対策について
110 番の家、青色回転灯パトロール車、県警メールほか
- (2) 論点整理表
- (3) 十和田市事務事業評価外部評価 (事前評価) 集計表
- (4) 十和田市事務事業評価外部評価表

3. 議 事

- (1) 会長あいさつ
- (2) 評価の進め方について

評価の進め方について、事務局から説明を行った。また、事前評価表を取りまとめ、作成した論点整理表について説明を行った。質問事項等無し。

(3) 質疑及び評価

担当課から追加資料の説明を行った後、委員と担当課による質疑を行った。その後、委員による外部評価表の記入を行い、その結果を取りまとめ、最も多かった意見を委員会の評価として決定した。

○ 地域防犯活動支援事業について

【質 疑】

- ・費用対効果の観点から、実効性のある防犯活動に予算が使われるべきと考える。その点で、青色回転灯の装着は抑止効果が高い。市内の装着の状況はどのようになっているか。
→警察の所管となっており、台数は公表されていない。文書での照会をしたい。
- ・市川市では、早い時期に導入し、成果を上げている。先生たちも装着している。日常の防犯効果が高いので、取り組むべき。
- ・内部評価は全部「A」で、満点だった。歴史的には業務が積み上げられてきて満点というのも分かるが、犯罪状況のデータをみると、犯罪は減少傾向にあるというものの依然ある。発生すると市民にとってもショッキング。侵入窃盗、自転車盗など、重点的に取り組み減らしていくべき。データに基づき、重点的取り組みについて警察と相談しながら取り組んでいるか。
→毎年ではないが、相談している。表に出る部分ではないがそのように取り組んでいる。
- ・防犯は警察の仕事だが、市は取り組みをまとめる役割がある。活動がマンネリ化しないため、重点化した取り組みをしていると思うがいかがか。
→今年はこちらを重点、というより、イベントを活用して、防犯をPRしている。犯罪の抑止に向けて、市と地域の方々、町内会と連携して取り組みを進めたい。
- ・防犯活動の妥当性、貢献度は高いと思う。ただ、有効性で考えると協会の活動はイベントでの啓発活動が主。もっと市民の具体的な取り組みを育てるべき。
- ・緊急避難の件数が分からないということであった。実効性があるか、110番の家、パトロール車などの実効性はあるのか、市民の関心も高いはず。防犯活動に情報が提供されて、活動に活かされるというのがよいと思う。
- ・イベントではなく、実践に必要なものに予算をもっと向けるべき。

→協会への支援の他に、教育委員会とも連携して登下校時の防犯活動なども実施している。また、職員が活動するよりは、協会員が活動したほうが効率的だと考えている。

・町内会と連携して啓発していきたいとのことだが、町内会は平均年齢が高くなっている。若い人が少ない。各種団体、PTA などには若い人、動ける人も多い。町内会ばかりでなく、いろいろな団体と連携すべき。

・林の陰など、点検して歩くと、例えば放置自転車等いろいろなまずいところがあると思う。犯罪を未然に防ぐためそういうところの木を切るなど整備することも大事だと思う。

→都市整備建築課など市役所内で課題を共有していきたい。

・協会に助成して犯罪がなくなるということではなく、自発的に防犯活動を行う団体に支援すべき。市民の意識も不足のところがある。自分たちのところは自分たちで守る、という計画を立てるべき。そういうものに助成すべき。

→地区や県組織は、人口などで負担金が決まっている。

・従属的な活動になっていないか。もっと積極的に活動してはどうか。演芸大会、総会の会場、研修の結果は活動に反映されているのかなど、効率を考えてほしい。

→団体の活動については、市が直接指導するというよりは、専門的な知識のある警察が中心となって指導しており、演芸大会などは啓発活動としての取り組みととらえている。市には警察官のような専門家が組織的にいないので、指導や取り組みにも限界がある。

・大学の周りには学生が多く住んでいる。防犯の組織もできていないと思うが、若い人がいるので、そういう人たちをうまく生かして、犯罪に合わない、犯罪を起こさない力になれないか。ソフト的なところで大学と連携できないか。

→昨年、大学生の要望で大学周辺の暗い所に街灯を取り付けた。今後は大学周辺の地域の方にも活動の広がりを求めていきたい。

【評価結果】

○事務事業の方向性

有効性を改善して継続

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・ソフト的な改善によって効果を上げるよう努力していただきたい。毎年重点テーマを決めることもよいと思う。
- ・防犯協会の存在の理解を深化させるためにも、主体的な事業の発案や実施、組織の活性化を図り、活動の形骸化をさせない工夫や事業が効果的に実施されているのか、成果を示す客観的な指標も必要。
- ・地域住民の防犯意識啓発、犯罪企図者の抑止力を高めるための新たな手段の改善も必要。
- ・さらに向上をめざして、有効性を考え効率よく実施してほしい。
- ・有効性あつての事業でなければならないと思う。しかし、それぞれの事業主体自らの自立できる環境整備を求める。
- ・効率性をよく考えて活動してもらいたい。

(4) 外部評価作業を終えるにあたって

○委員からのコメント

- ・昨年 3 事業の評価を行い、今年は 1 事業を自分たちで選定した。3 回の会議で評価作業ができるのは 3 事業ぐらいでぎりぎりだと感じた。
- ・市がどんな事業をしているか知ることができる。資料をいただき、分析、検討すれば何か必ず意見が出る。国では事業仕分けを行ったが、市においてはどのような役目を持つのか。
→結果や提言を受けて、担当課では対応を検討し、庁議において確認したのち、対応方針を公表する。また、外部評価作業の状況は、報告書を作成して市長に提出する。受けたことに対して、全てが変わるということは難しいが、できることをやるように対応していくことになる。仕分けというよりは、これらの取り組みを公開、公表して説明責任を果たす取り組みとして行っている。
- ・そのように努めていただきたい。
- ・今回 5 人の委員の出席だったが、なるべくみんなが出席出来る日に調整して開催すべき。
- ・来年度の委員の選定にあたっては、一般公募を含めてほしい。今回、委員となってみて、行政の事業がこんなにダイレクトに生活に関係があると感じた。大変勉強になった。最初はたった 3 つの事業だけ?と思ったが、3 つでも大変だった。ぜひ市民の皆さんにも体験させたいと感じた。
→一般公募についても考えていきたい。
- ・市民にとってもいい勉強になり、市の事業も改善されるとすれば、我々市民のためにもなる。
- ・地域防犯活動支援については、内部評価では満点だったが、外部評価を受けて

刺激になったのではないか。やはりできるだけ外部評価を体験していないところを選んでやっていくことも必要だと感じた。

【事務局より】

- 先ほどいただきました、ご意見につきましては、次年度に向けて、検討してまいりたい。今後、評価結果を、報告書という形でまとめ、市長へ報告するとともに、報告書を委員の皆様へお配りしたい。内容については、一度各委員にお示しして確認してもらったのち、会長から市長に提出する予定。評価を受けた3事業については、ご提言を踏まえ、担当課としての対応方針を検討し、庁議に諮り、事務事業の方向性を決定する。また、本日の会議結果や報告書と併せ、ホームページ等に掲載し、公開したい。委員の皆様におかれましては、非常に貴重なご意見をいただきまして、大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上